

GEヘルスケア・ジャパン  
循環器領域の開業医向けに最適な心エコー装置  
「Vivid T8」を発売  
～Vividシリーズのハイエンド機能をコンパクトに集約～  
(2014/10/8)

GEヘルスケア・ジャパン(株)は、汎用超音波診断装置Vividシリーズの最新機種「Vivid T8(ヴィヴィッド・ティーエイト)」の発売を開始した。Vivid T8は、循環器領域向けVividシリーズの先進機能と性能をクリニック向けに小型軽量化した循環器領域の開業医向けの心エコーである。

高齢化の進展に伴い、近年増加の一途をたどる心疾患や、高血圧、糖尿病などの慢性疾患の増加を背景に、心臓用超音波診断装置に対するニーズは急速に伸びている。一方、超高齢社会における地域に密着した診療の重要性が増し、2025年モデルに向けて、「かかりつけ医」としてのクリニックの果たす役割がますます重要となる中、超音波診断装置を今まで以上に活用する必要があると考えられる。

同社の超音波診断装置は、汎用向けの「LOGIQ(ロジック)」、循環器向けの「Vivid(ヴィヴィッド)」、そして産婦人科向けの「Voluson(ボルソン)」と3ブランド体制を採用しており、全ブランドにおいて、エントリーモデルから高性能機種まで幅広い製品を提供し、臨床や研究など多岐にわたるニーズに対応している。循環器用超音波診断装置Vividシリーズは、上位機種「Vivid E9」から、「Vivid S6/S5」、可搬型ノートブックタイプの「Vivid i/q」など、循環器領域における医療機関のニーズにきめ細かに対応可能な幅広いラインアップを揃えている。今回発売するVivid T8は、Vividシリーズの心エコーとしての優れた性能をコンパクトな形状に集約しつつ、より簡単な操作性、さらに血管・腹部領域の強化を実現した。また、RAWデータのテクノロジーにより、病診連携における連携先の基幹病院とのデータ共有による検査時間や回数の削減を実現し、疾病の早期発見はもとより、患者さんの負担軽減や医療費削減に貢献することが期待できる。

